



群馬銀行との基幹系システム共同化に関する基本合意について ～「T S U B A S Aアライアンス」提携施策～

東邦銀行（頭取 佐藤 稔）は、2026年1月30日（金）、当行を含む「T S U B A S Aアライアンス^{※1}」参加行である千葉銀行（頭取 米本 努）、第四北越銀行（頭取 殖栗 道郎）、中国銀行（頭取 加藤 貞則）、北洋銀行（頭取 津山 博恒）の4行、および日本アイ・ビー・エム株式会社（代表取締役社長 山口 明夫、以下「日本IBM」）、キンドリルジャパン株式会社（代表取締役社長執行役員 ジョナサン・イングラム、以下「キンドリルジャパン」）とともに、群馬銀行（頭取 深井 彰彦）と「T S U B A S A基幹系システム」を共同化することに基本合意しました。

「T S U B A S Aアライアンス」参加行の群馬銀行は、昨年7月より、関係各行（社）とともにシステムの開発内容や共同化によるコスト負担方式などの検討を進めてまいりました。このたび、今般の基本合意に至り、今後は、2029年度に予定するシステム稼働に向け、関係各行（社）と協力して各種機能開発に取り組んでまいります。

今回の群馬銀行の参加により、本システムの共同化行は「T S U B A S Aアライアンス」6行に拡大します。これにより、「スケールメリットによるコスト削減」「商品開発・サービス提供のスピードアップ」「システム人材の育成」といった、共同化によるさらなる効果が期待されます。

当行は、T S U B A S Aアライアンス行、日本IBM、キンドリルジャパンと連携して地域社会やお客様さまに付加価値のあるサービスを提供するとともに、基幹系システムの高度化を通して「すべてを地域のために」を経営理念のもと、地域金融サービスの枠を超えて地域社会に貢献する会社を目指してまいります。

【T S U B A S A基幹系システムについて】

T S U B A S A基幹系システムは、千葉銀行、第四北越銀行、中国銀行、北洋銀行、東邦銀行、日本IBMおよびキンドリルジャパンが共同で開発した基幹系システムです。2028年度から2030年度にかけて、次期基幹系システムに移行予定であり、2026年1月より、構築に着手しました。

次期基幹系システムでは、現行の「メインフレームとオープン基盤のハイブリッド基幹系システム^{※2}」をさらに進化させる取組みを進めます。具体的には、アプリケーションを最新化する取組み（メインフレームプログラムの一部オープン化・シンプル化）や、クラウド開発環境の構築、最新の開発ツール導入などを実施するほか、日本IBMが持つAIや耐量子計算機暗号^{※3}等の最先端技術の活用についても検討します。

また、IBM社の最新型メインフレームの調達においては、システムを共同利用する銀行間で費用を按分しつつ、千葉銀行が一括して調達を行うことで、スケールメリットによるコスト削減を図ってまいります。

※1 千葉銀行、第四北越銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行、武蔵野銀行、滋賀銀行、琉球銀行、群馬銀行の10行が参加する地銀広域連携の枠組み。（URL：<https://tsubasa-al.co.jp>）

※2 信頼性の高いメインフレームと柔軟性の高いオープン／クラウド基盤などを適材適所で使い分けるシステム。

※3 2030年代半ばに実用化が想定される量子コンピュータは、現在の一部暗号技術を短時間で解読してしまう懸念があり、これを防止するための強度の高い新たな暗号方式。

【T S U B A S A 基幹系システム共同化の歩み】

年 月	内 容
2012 年 10 月	千葉銀行、第四北越銀行、中国銀行が基幹系システムの共同化に基本合意
2016 年 1 月	千葉銀行が「T S U B A S A 基幹系システム」の稼働を開始
2017 年 1 月	第四北越銀行が「T S U B A S A 基幹系システム」の稼働を開始
2017 年 5 月	中国銀行が「T S U B A S A 基幹系システム」の稼働を開始
2018 年 7 月	北洋銀行が基幹系システムの共同化に基本合意
2019 年 9 月	東邦銀行が基幹系システムの共同化に基本合意
2023 年 1 月	北洋銀行が「T S U B A S A 基幹系システム」の稼働を開始
2024 年 1 月	東邦銀行が「T S U B A S A 基幹系システム」の稼働を開始
2025 年 7 月	群馬銀行が基幹系システムの共同化に向けた本格的検討を開始
2026 年 1 月	次期「T S U B A S A 基幹系システム」構築を開始
	群馬銀行が基幹系システムの共同化に基本合意

以 上

東邦銀行